

三重県東日本大震災支援本部 第21回本部員会議 概要

- 1 開催日時：平成27年10月13日（月）9:00～9:30
- 2 開催場所：県庁3階プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：以下のとおり
（●説明、☆意見）

1 各部署の取組について

(1) 平成27年度の取組予定

- 防災対策総務課長 資料1により説明

(2) 事業の実施報告

- 教育総務課 駒田主幹、教育政策課 上村主幹 資料2により説明

2 東日本大震災被災地訪問調査概要報告について

- 防災対策総務課 内海主幹 資料3により説明

☆山口教育長

学生が帰ってきてからの横の展開が一番大事だと思っているので、確認してやっていきたい。

☆渡邊危機管理統括監

コミュニティ交流員は、いつからの取組か。平成27年度以降も、増やしていくのか。課題はどういったものがあるか。

●内海主幹

平成26年度からの取組で、平成27年度以降も増やしていくと聞いている。生活支援相談員や民生・児童委員等との情報共有が、課題であるとのことであった。

☆植田副知事

引き続き息の長い支援が必要と思うので、よろしくお願ひしたい。

☆知事

教育委員会の事業で、子どもたちの反応はどうだったのか。

●上村主幹

事後の満足度アンケートで、全体では10点満点で9.2点だった。項目別では

また報告書を作成する。ボランティアに行った生徒たちは、現場を見て、先入観で思っていたこととかなり違うことに心を揺り動かされたとの感想が多かった。常総市で水害があったが、この事業に参加していた伊勢市の女子中学生が1名ボランティアで参加したと聞いている。

●駒田主幹

土砂災害が懸念されているいなべ市の中学生と女川町の中学生が交流する中で、女川町の中学生も土砂災害への関心が高まっていった。女川中学校では防災委員会を立ち上げて活動をしていて、それを聞いた藤原中学校の生徒は、自分たちも何か始めたいとのことだった。11月に報告会を予定している。

☆知事

私学もこういう取組をやっているのか。

●環境生活部長

一部の学校では対応しているが、全体的な取組とはなっていない。

☆知事

私学でもこういう機会を長く持てるように工夫して欲しい。

☆知事

- ・ 被災地の復興はまだ道半ばであるので、長く寄り添っていく必要がある。教育委員会の報告にあったように、ともに成長し合うような交流を長く続けて復興を応援することが大事である。
- ・ 約 440 名の避難者の方が県内にいらっしゃるので、必要な情報が確実に届くように引き続きお願いしたい。
- ・ 派遣職員 6 名の側面的なサポートを、引き続き各部局でお願いしたい。
- ・ 10 月 20 日に宮城県知事と懇談を予定しており、意見交換で復興支援が項目に入っている。新たな依頼がある場合は、防災対策部を通して各部局にお願いするので、協力をお願いしたい。